

所在地：群馬県板倉町 選定年月日：平成23年9月21日 面積：606.5ha 選定基準：二(一)(一)(八)

(1) 概要

群馬県の最東端に位置する板倉町では、利根川と渡良瀬川との合流点に形成された低湿地（水場）が展開しています。当地は古くから水害常襲地帯であり、豊かな土壌・生態系が育まれる一方、生活を営むために様々な工夫が行われてきました。

当地における人々の居住は縄文時代から確認されますが、広大に展開する沖積低地における集落形成や開墾は、中世末期から近世にかけて実施された築堤や河川の瀬替えによって実現しました。近代には大規模な治水事業が行われ、現在に通じる水利システムが完成しました。こうした治水事業によって開墾された低地では、主に水田耕作が行われています。

水田の中には、河川や沼に面した湿地に溝状の堀を設け、その掘削土を客土（揚げ土）して造成した、川田(かわた)と呼ばれる農地も営まれています。また、自然堤防上を中心に形成されている居住地では、屋敷地の一画に土盛りをし、その上に水塚(みつか)と呼ばれる避難用建物が築造されています。屋敷地の北西にはエノキ・ムクノキなど自然堤防の環境に適応した郷土種や、水防にも有効なタケ類が植栽されており、防風屋敷林として機能しています。

このように、利根川・渡良瀬川合流域の水場景観は、大河川の合流域に形成された低地で営まれてきた水と共生する生活・生業上の様々な工夫によって育まれた価値の高い文化的景観です。



利根川の北側に広がる低湿地の中の、自然堤防上に集落が立地

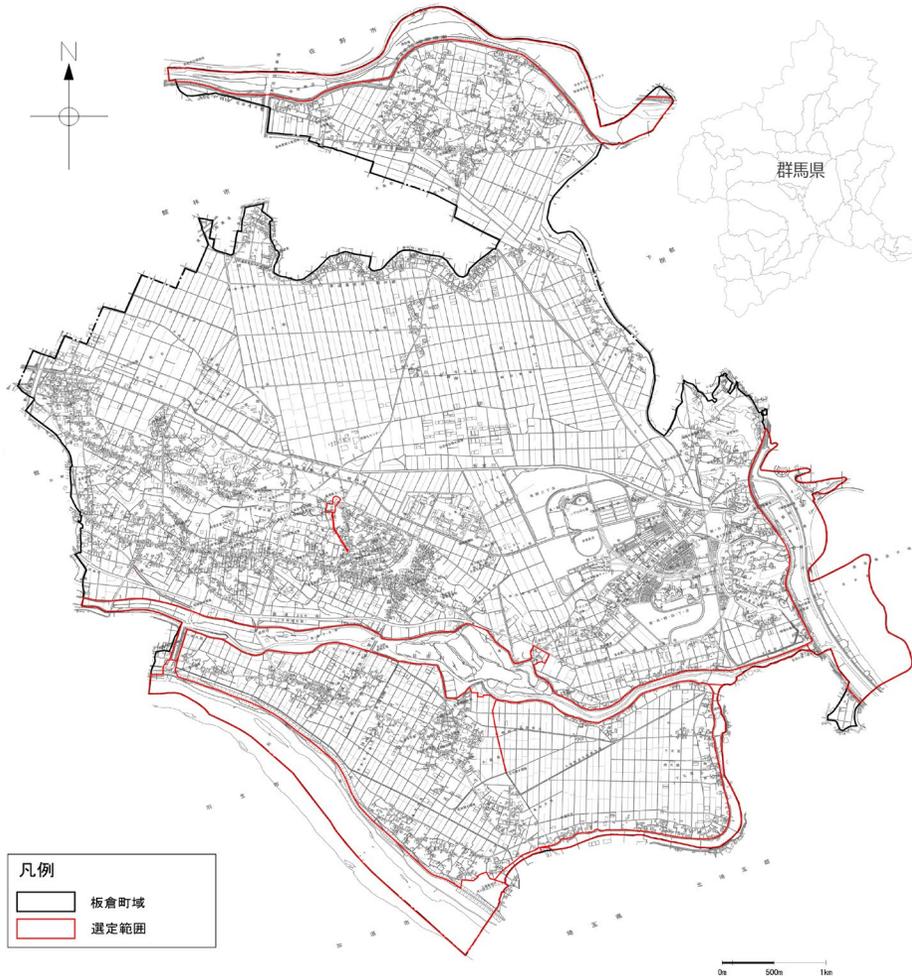


屋敷林に囲まれた居住地



高台に築かれた水塚

（2）選定範囲



- 重要な構成要素：70件
- 国指定重要文化財：雷電神社末社八幡宮稲荷神社社殿（建造物）
- 景観重要建造物：4件（水塚）

（3）選定による効果

時代の変化に伴い、継承されるべき伝統文化や水防に対する意識が徐々に薄れていくことを危惧し、長年に渡って地域特有の歴史・文化・自然を見直す取り組みを行ってきました。特に、「水」と関わりある地域固有の文化を「水文化」と称して、水文化が育んできた景観を保存活用する機会を増やしてきました。

選定後には、文化的景観の制度を活用し、地域に愛され水文化を表す上で重要な神社である雷電(らいでん)神社の参道を整備し、地域内外の人々が来訪しやすくなりました。また、板倉町と地域団体の協働により、積極的に学校教育や地域学習に取り組むほか、来訪者を観光案内するガイド団体も誕生するなど新たな関わりも生まれています。



整備された雷電神社参道



谷田川の柳山を巡る「揚舟ツアー」

（4）保存活用計画などの基礎情報

- 水場の文化的景観保存調査報告書（平成20年3月、板倉町）
- 利根川・渡良瀬川流域の「水場」景観保存計画（平成20年3月、板倉町）
- 利根川・渡良瀬川合流域に形成された水場景観保存計画（平成23年3月、板倉町）
- ホームページ <https://www.town.itakura.gunma.jp/index.html>

(5) 活用事例

事例10-01 ①

暮らしの空間をやさしく伝える、手作り資料館

●行政による取り組み

この地に太古より住んできた人々の暮らしの営みが、資料館で垣間見ることができます。発掘された遺物などの展示のほか、板倉町の文化的景観を簡単明瞭に理解できるよう職員手作りの模型、図画などにより展示されています。

写真左上の模型は、実際にあった母屋を取り壊す際に実測し、1/20の大ききで再現したものです。また、水塚内部の仕組みも別の模型によって、分かりやすく説明されています。

重要文化的景観の重要な構成要素の写真と説明文を添え、自転車で気軽に文化的景観を巡ることができるコースを地図で示した「みずばポタリングまっぷ」は、資料館をはじめ町内の各公民館などに常備し、レンタサイクル施設を活用することで、自由にポタリングし、文化的景観を楽しむことができます。

見学者の声

板倉町の様々な移り変わりを肌で感じる事ができました。手作りの展示の中に細かい研究に基づいたデータが反映されていて素晴らしかったです。保存するのは大変かと思いますが、ぜひ、次の世代の人々に引き継いでもらいたいです。



水塚(左)と茅葺の母屋(右)の模型



水塚の内部の様子を示した模型



手作りの展示の様子



みずばポタリングまっぷ

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 資源の
運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

事例10-01 ②

語り部としてともに歩き、追体験をする活動

●住民や団体等による取り組み

文化的景観の保存には、住民と協働で行うことが特に重要と考え、選定に先立って、長年、民具の収集など、地域文化の継承のため活動していた住民を中心に「水場の風景を守る会」が設立されました。活動としては、日常的な水場景観のパトロールや保護管理及び整備、川田の耕作、柳山での挿し木、文化財のガイド、揚舟講座、地域について学ぶ板倉学講座などがあります。

平成30年度までは地域の小学生と団体が一体となり、重要文化的景観の重要な構成要素である「川田」で1年を通し田植えから稲刈り、脱穀体験までの体験学習を行っていました。子どものうちから文化的景観について興味関心を持つことで、郷土愛を醸成し、地域の活性化への機会を生み出しています。

他にも水場の風景を守る会では、ウォーキングをしながら水塚や雷電神社、沈下橋などの板倉町の文化的景観を代表とする重要な構成要素などについてのガイドや、水場の語り部として地域固有の水文化についての説明など来訪者に板倉町の歴史や魅力等を伝える活動を行っています。

✓ 手づくり郷土賞（令和2年度）



川田での田植え体験



川田での稲收穫体験



脱穀体験(足踏み脱穀機・千歯扱き・唐箕など)



水場の風景を守る会によるガイドの様子

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育てり